

柏崎刈羽原発の再稼働、だめだこて! なくそテ原発2018柏崎大集会に1000人

「なくそテ原発2018柏崎大集会が16日開催され、県内外から1000人を超える人たちが集まりました。上越市からも大型バスや自家用車で70人ほどの人たちが参加しました。

主催者代表の植木さんや首都圏反原発連合のミサオレッドウルフさんらは原発再稼働の可能性に言及しました。話を聴いて、「いま、ここでがんばらないと原発はなくせない」と改めて思いました。

講演は城南信用金庫顧問の吉原毅さんの「世界最大規模の柏崎刈羽原発で大きな事故が起きたら、柏崎や新潟県だけでなく、日本が壊滅する」として、原発をゼロにして経済を再生させる道を語りました。吉原さんは、「世界は太陽光発電が主力になっている。新潟県では、田んぼに降りそそぐ光の3分の1で発電し、残りの光でイネを育てるソーラーシェアリングを導入す

れば、毎年1兆円の経済効果が見込める」とし、脱原発と経済の発展は両立できるとのべました。吉原さんは文系だと言いながら、水素爆発や地震動等の説明をされましたが、身近な事と関連させながらのわかりやすい説明は見事でした。数字もポンポンと飛び出し、弁舌はじつになめらかでした。

集会では、福島原発事故の後、福島県南相馬市に戻って暮らしている瘦部千伊さんも報告されました。瘦部さんが知っている104歳のおばあちゃんが亡くなった後、葬儀に向かう途中のことでしょうか、そのおばあちゃんを車にのせて走り、「ココがデイスタービスだよ」と声をかけたとい

う話、切なかったですね。また、愛媛に避難している中学2年生のお孫さんが作文で、「地面がバリバリと割れ、黒い波が襲ってきた」などと書いてきたことなども紹介しました。孫さんたちは1か月に一度くらい南相馬に戻ってきて、一緒に暮らし、学校にも行っているとか。感動的な報告でした。

集会後、参加者は柏崎市内を元気にデモ行進しました。



工事における工種別の契約件数及び平均落札率

	工種	契約件数		比較増減
		平成28年度	平成29年度	
契約件数	土木	236	155	△81
	建築	73	50	△23
	電気	69	51	△18
	管	58	38	△20
	舗装	54	51	△3
	その他	77	98	21
	合計	567	443	△124
平均落札率	土木	93.90	95.59	1.69
	建築	97.22	96.17	△1.05
	電気	92.40	94.75	2.35
	管	82.93	86.08	3.15
	舗装	92.69	93.47	0.78
	その他	92.86	92.14	△0.72
	合計	92.77	93.73	0.96

13日、上越市発注の工事における工種別の契約件数及び平均落札率がとりあげられました。左表は議会で初めて示されたものですが、管工事だけが80%台であるとは90%台と

なっています。委員会で初めて示された原因などを質したのですが、契約検査課長は、「結果である」点を強調していましたが、たしかに結果ですが、再入札のあるなしなどを総合的に見れば、管工事では「競争」となった結果であることは明白です。

平均落札率は管工事だけが80%台



【アカバナ】アカバナ科の多年草。漢字で「赤花」と書きます。荒れた田んぼのなかで咲いていました。花期は7月～9月。花の色は赤というよりも薄赤です。花言葉は、「伝言」だとか。17日の午後、撮影しました。

はしづめ法一の
活動レポート

No.1876 2018.9.23
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第五二四回

千本桜

美術館で作品鑑賞をしているときに、突然ピアノが鳴り響いたとなれば誰しもびっくりするでしょう。先日、「絵本と木の実の美術館」で実際にあった話です。

この日は大地の芸術祭、最後の日でした。十日町市にある旧真田小学校の建物をそのまま活用した同美術館は、そこに至る道が渋滞となるほどの人気でした。

私が美術館に到着したのは正午過ぎです。入り口のそばにあるマムシをかたどった大きなトンネルをくぐり抜け、美術館の本体に入った私は、まず田島征三の絵本原画をみました。サンゴのように枝が伸びた木とヘビ、そして白だけでなく、様々な色で雪を表現した雪国の風景はこの人ならではのものです。絵をみた子どもたちが喜びのもつなげます。

続いて屋内運動場だった広い場所へと移動しました。流木を使ったのでしょうか、赤や青、緑、黄色などの塗料が塗られた木々が見事な作品に生まれ変わって、床の上に置かれたり、天井からぶら下げられたりしていました。その中には、恐竜に見えるもの、家畜に見えるものがありました。人間が両手を広げているように見えるものもありました。運動場の空間をいっぱい使って人間だけでなく、様々な生き物が動いている、私はそう思いました。

作品を一通りみてから、私は山際の窓のそばで、天井からぶら下げられたボードに木の実をいっぱいくっつけた作品を見上げました。これは一体何を表しているのか、川の流れか、それとも吹雪きか、そんなことを考えていたときのことです、突然、ピアノ演奏が始まったのは……。

タタンタタン、タタタタタン、タタンタ、タタンタ、タタタタン……軽快な演奏は作品をみていた人たちをすぐに惹きつけ

ました。私は展示されていた作品が踊り出すのではないかと思いました。それくらい、この展示会場の雰囲気はびたりと合っていたのです。

演奏が一区切りしたところで、会場からは「上手！」という声とともに大きな拍手が送られました。

ピアノを演奏していたのは縞模様のシャツを着た少年です。「この曲は何という曲？」そう聞くと、「千本桜」という答えが返ってきました。何とヨサコイでおなじみのヒットソングだったのです。

少し間をおいて、少年は再びピアノに向かい、さらに二曲弾きました。三曲目は会場にいた若夫婦の求めに応えたものです。ピアノのすぐそばでは、演奏する少年の姿をお父さんに抱かれた赤ちゃんがじっと見つめていました。この子も少年の弾くピアノ演奏が気に入ったようです。

少年は小千谷市からやってきた小学六年生でした。小学一年の時からピアノを習っていて、この美術館を訪れたのは三回目だといいます。前に来た時に、ここでピアノが弾けることがわかり、今回もこの場所でピアノを弾くのを楽しみにしていたようです。低学年用の低い木のイスに座って演奏する姿は少しおかしく見えました。激しく軽やかな指の動きはピアノが好きでたまらないことを示していました。

この日の朝、私は何か素敵な出会いがある予感がしていました。美術館では、教室や階段、木のイスなどが閉校となった一三年前の時のそのままの姿で活用されています。数十年前、木造の旧源小学校水源分校で学んだ私は、それだけでも大感激でした。それに加えて少年の突然のピアノ演奏を聴くことができたのです。忘れることのできない一日になりました。

話題の下美守郷村絵図

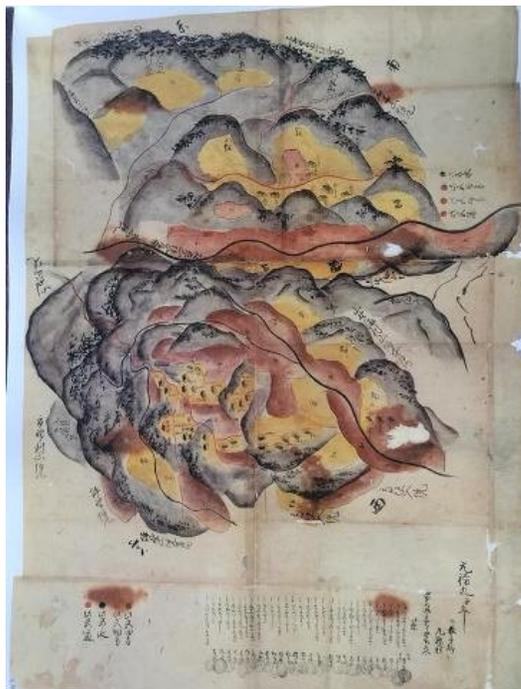
ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	9月12日(水)	9月19日(水)
上越南消防署	0.043	0.057
上越北消防署	0.040	0.047
新井消防署	0.047	0.040
頸北消防署	0.050	0.057
頸南消防署	0.040	0.060
東頸消防署	0.043	0.037
高士分遣所	0.050	0.053
名立分遣所	0.053	0.053



15日、吉川区国田の善徳寺に立ち寄り、話題の下美守郷村(しもむだもりごうむら)絵図を見てきたことです。

私は学生時代の恩師から「吉川町権の大滝家文書は近世資料の1級品だ」と聞いていました。そのなかに、1696年(元禄9)に描かれたというこの絵図があったとは

びっくりでした。

展示されている何枚かの絵図(複製)のなかで最もひきつけられたのはおが家があった尾神村の絵図です。いまから320年ほど前のおが家が描かれているかどうか、注目しました。おが家(法生坊)は確認できませんでしたが、30数年前におが家があった場所の近くの地名、「大田」を発見しました。どきどきしましたね。

今回の絵図の複製をつくるにあたり、吉川区の「歴史と文化のまちづくり研究会」のみなさんが尽力してくださったとのこと、心から感謝します。複製版は土日、祝日に善徳寺で公開されています。



今年もシロバナサクラタデが咲きました。